

## 2018年度秋季大会の報告

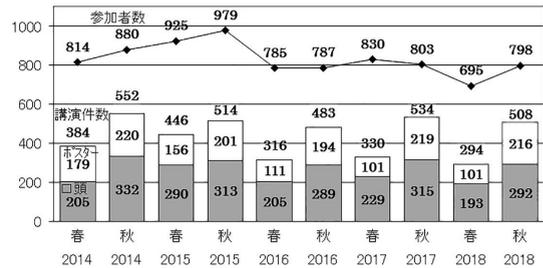
2018年度秋季大会は、仙台国際センター（宮城県仙台市青葉区青葉山無番地）を会場として2018年10月29日（月）～11月1日（木）に行われた。参加者数（前納登録者と当日受付者の合計）は798名であった（第1図）。

1日目午後には、同日午前で開催された第1回小倉特別講義との連携セッションが開催された。2日目午後には、大ホールにおいてシンポジウム「未来を拓く気象観測のあり方」が開催され、5件の基調講演と総合討論が行われた。続く授与式において、鶴田治雄氏と芳村 圭氏に堀内賞が、近本喜光氏と中山智喜氏に正野賞が、神山 翼氏と林 未知也氏と本田 匠氏に山本賞が、松岡直基氏に奨励賞がそれぞれ授与され、受賞者による記念講演が行われた。

大会期間中は、ポスターまたは口頭発表による一般講演、並びに特定のテーマに基づいて世話人が編成する8件の専門分科会が行われた。一般講演の発表件数は401件（内訳はポスターが216件、口頭発表が185件）、専門分科会は107件で計508件であった。

会期中およびその前日には、個別のテーマによる5件の講演会や研究連絡会が開かれた。また、国際学術交流委員会の主催により、第1回小倉特別講義が開催された。

今大会では、前大会と同様に無料試行という位置づ



第1図 過去5年間の大会参加者数と講演件数（口頭、ポスター）。

けで、製本版の予稿集の定期購読者に限り、電子版予稿集のダウンロード配布を行った。

会員の皆様には大会全般に関するアンケート調査にご協力頂きました。誠にありがとうございました。

今大会の開催に当り、12の企業・団体・自治体からご出展・リクルートブース開設・ご協賛・ご協力を頂きました。厚く御礼申し上げます。

最後に、大会実行委員会として大会準備・運営にご尽力頂いた東北大学、仙台管区气象台、日本気象協会東北支社、日本気象予報士会東北支部をはじめとする東北支部の皆様には深く感謝の意を表します。

2018年11月 講演企画委員会